

令和4年度 県立鬼怒商業高等学校自己評価表

目指す学校像		保護者や地域の期待と信頼に応え、地域のリーダーとなる「人材」を育成する学校	
○生徒が自ら考え学ぶことをとおして、一人一人の資質・能力や個性を伸ばす学校		○安心・安全な学校	
昨年度の実績と課題		重点項目	
【学習指導】 休校中のオンライン学習の他、全職員が電子黒板やタブレットを使用する機会が増え、利用技術の向上も見られた。 コロナ禍にも関わらず、各学年で定期テストの結果を残したり、学びに向かう姿勢に改善が見られる生徒も増加した。 一方、新教育課程の初年度にあたるので、各教科の「指導と評価の一体化」を念頭に置いた観点別評価の適正な評価規程の作成及び「単元別指導と評価の計画」の導入とその確実な運用、コロナ禍においても着実に基礎学力や学びの姿勢の向上につながるような教員側の体制づくりとICTの更なる活用が課題である。 【進路指導】 企業の担当者や3年生からの説明や体験談を聞くことで、進路活動に前向きに取り組む生徒が増えた。学校や企業との連絡を密にし、素早い対応ができた。また、ハローワークからも適切な助言をもらうことも大いに役立った。会社見学は100%実施することができ、オープンキャンパスにもかなりの生徒が参加した。 一方で、基礎学力に関しては、例年と比較して大きな変化は見られなかった点、キャリアパスポートの活用においては、今年により差が出てしまった点、3年生以外ほとんど進路資料室が活用できていなかった点、教員間の情報共有が十分ではなかった点が課題である。 【生活指導】 指導が浸透してきたことから、生徒たちは落ち着いた学校生活を送ることができた。しかしながら、交通事故の発生、交通マナー、学校のマナーといった校外の部分では状況は悪化しなかった。	生徒の個人的資質の向上		
	商業に関する専門的知識の育成		
	保護者や地域の期待と信頼に応える学校づくり		
生徒一人一人の資質・能力を伸ばすために、学校全体で取り組む組織づくり			
安心・安全な学校づくり			
教育活動の一層の充実に向けた業務の効率化			
具体的目標			
○保護者や地域の期待と信頼に応え、地域のリーダーとなる「人材」を育成する学校	○生徒が自ら考え学ぶことをとおして、一人一人の資質・能力や個性を伸ばす学校	○基本的な生活習慣の確立及び豊かな情操とコミュニケーション能力の向上	○授業、部活動、学校行事等、学校教育活動全体を通じて達成感、生徒の自己肯定感の向上
○次の6項目を推進することにより、最終商業高校生としての誇りをもちつつ、将来、地域のリーダーとして社会に貢献できる「人材」の育成に努める。 1 生徒の個人的資質の向上に努める。 2 商業に関する専門的知識の育成に努める。 3 保護者や地域の期待と信頼に応える学校づくりに努める。 4 生徒一人一人の資質・能力を伸ばすために、学校全体で取り組む組織づくりに努める。 5 安心・安全な学校づくりに努める。 6 教育活動の一層の充実に向けて、業務の効率化を図る。		○教科内の連携による指導法の共有及び授業公開と意見交換による教員の授業改善	○新時代求められる資質・能力の向上
○世の中の動きや商業に興味があり、商業に関する学習をしたい生徒		○出前授業や学校Webページ等、教育活動の効果的な情報発信による募集人員の定数確保	○主体的・協働的に課題の発見・解決に取り組む態度の育成
○目標をもち、本校での学習をとおして自分の可能性を伸ばそうとする生徒		○キャリアパスポートの活用及びキャリア教育の充実による進路実現100%	○主体的・協働的に課題の発見・解決に取り組む態度の育成
○学校行事、生徒会活動、部活動などに積極的に関わり取り組む意欲のある生徒		○ボランティア活動や課題研究等、地域社会と連携した体験的学習及び課題解決学習の充実	○主体的・協働的に課題の発見・解決に取り組む態度の育成
B		○カリキュラム・マネジメントを推進し、計画的かつ組織的な教育活動の向上	○主体的・協働的に課題の発見・解決に取り組む態度の育成
B		○PDCAサイクルを機能させ、学校評価と関連付けた教育内容の質の向上	○主体的・協働的に課題の発見・解決に取り組む態度の育成
B		○組織やマネジメントの推進、教職員間の活発な意見交換による学校運営及び業務の改善	○主体的・協働的に課題の発見・解決に取り組む態度の育成
B		○生徒が安心して学習に取り組める環境づくり	○主体的・協働的に課題の発見・解決に取り組む態度の育成
B		○いじめ・体罰・災害等の防止及び迅速な対応	○主体的・協働的に課題の発見・解決に取り組む態度の育成
B		○ホームルーム、授業、二者面談及び三者面談等、生徒一人一人と向き合う丁寧な対応	○主体的・協働的に課題の発見・解決に取り組む態度の育成
B		○各業務について、教育の目的達成に適切な方法となっているか不断の見直し	○主体的・協働的に課題の発見・解決に取り組む態度の育成
B		○校内における情報の共有化の推進	○主体的・協働的に課題の発見・解決に取り組む態度の育成
B		○地域の人的・物的資源を活用した教育活動の推進	○主体的・協働的に課題の発見・解決に取り組む態度の育成
B		○地域的人的・物的資源を活用した教育活動の推進	○主体的・協働的に課題の発見・解決に取り組む態度の育成
B		○地域的人的・物的資源を活用した教育活動の推進	○主体的・協働的に課題の発見・解決に取り組む態度の育成
B		○地域的人的・物的資源を活用した教育活動の推進	○主体的・協働的に課題の発見・解決に取り組む態度の育成
B		○地域的人的・物的資源を活用した教育活動の推進	○主体的・協働的に課題の発見・解決に取り組む態度の育成
B		○地域的人的・物的資源を活用した教育活動の推進	○主体的・協働的に課題の発見・解決に取り組む態度の育成
B		○地域的人的・物的資源を活用した教育活動の推進	○主体的・協働的に課題の発見・解決に取り組む態度の育成
B		○地域的人的・物的資源を活用した教育活動の推進	○主体的・協働的に課題の発見・解決に取り組む態度の育成
B		○地域的人的・物的資源を活用した教育活動の推進	○主体的・協働的に課題の発見・解決に取り組む態度の育成
B		○地域的人的・物的資源を活用した教育活動の推進	○主体的・協働的に課題の発見・解決に取り組む態度の育成
B		○地域的人的・物的資源を活用した教育活動の推進	○主体的・協働的に課題の発見・解決に取り組む態度の育成
B		○地域的人的・物的資源を活用した教育活動の推進	○主体的・協働的に課題の発見・解決に取り組む態度の育成
B		○地域的人的・物的資源を活用した教育活動の推進	○主体的・協働的に課題の発見・解決に取り組む態度の育成
B		○地域的人的・物的資源を活用した教育活動の推進	○主体的・協働的に課題の発見・解決に取り組む態度の育成
B		○地域的人的・物的資源を活用した教育活動の推進	○主体的・協働的に課題の発見・解決に取り組む態度の育成
B		○地域的人的・物的資源を活用した教育活動の推進	○主体的・協働的に課題の発見・解決に取り組む態度の育成
B		○地域的人的・物的資源を活用した教育活動の推進	○主体的・協働的に課題の発見・解決に取り組む態度の育成
B		○地域的人的・物的資源を活用した教育活動の推進	○主体的・協働的に課題の発見・解決に取り組む態度の育成
B		○地域的人的・物的資源を活用した教育活動の推進	○主体的・協働的に課題の発見・解決に取り組む態度の育成
B		○地域的人的・物的資源を活用した教育活動の推進	○主体的・協働的に課題の発見・解決に取り組む態度の育成
B		○地域的人的・物的資源を活用した教育活動の推進	○主体的・協働的に課題の発見・解決に取り組む態度の育成
B		○地域的人的・物的資源を活用した教育活動の推進	○主体的・協働的に課題の発見・解決に取り組む態度の育成
B		○地域的人的・物的資源を活用した教育活動の推進	○主体的・協働的に課題の発見・解決に取り組む態度の育成
B		○地域的人的・物的資源を活用した教育活動の推進	○主体的・協働的に課題の発見・解決に取り組む態度の育成
B		○地域的人的・物的資源を活用した教育活動の推進	○主体的・協働的に課題の発見・解決に取り組む態度の育成
B		○地域的人的・物的資源を活用した教育活動の推進	○主体的・協働的に課題の発見・解決に取り組む態度の育成
B		○地域的人的・物的資源を活用した教育活動の推進	○主体的・協働的に課題の発見・解決に取り組む態度の育成
B		○地域的人的・物的資源を活用した教育活動の推進	○主体的・協働的に課題の発見・解決に取り組む態度の育成
B		○地域的人的・物的資源を活用した教育活動の推進	○主体的・協働的に課題の発見・解決に取り組む態度の育成
B		○地域的人的・物的資源を活用した教育活動の推進	○主体的・協働的に課題の発見・解決に取り組む態度の育成
B		○地域的人的・物的資源を活用した教育活動の推進	○主体的・協働的に課題の発見・解決に取り組む態度の育成
B		○地域的人的・物的資源を活用した教育活動の推進	○主体的・協働的に課題の発見・解決に取り組む態度の育成
B		○地域的人的・物的資源を活用した教育活動の推進	○主体的・協働的に課題の発見・解決に取り組む態度の育成
B		○地域的人的・物的資源を活用した教育活動の推進	○主体的・協働的に課題の発見・解決に取り組む態度の育成
B		○地域的人的・物的資源を活用した教育活動の推進	○主体的・協働的に課題の発見・解決に取り組む態度の育成
B		○地域的人的・物的資源を活用した教育活動の推進	○主体的・協働的に課題の発見・解決に取り組む態度の育成
B		○地域的人的・物的資源を活用した教育活動の推進	○主体的・協働的に課題の発見・解決に取り組む態度の育成
B		○地域的人的・物的資源を活用した教育活動の推進	○主体的・協働的に課題の発見・解決に取り組む態度の育成
B		○地域的人的・物的資源を活用した教育活動の推進	○主体的・協働的に課題の発見・解決に取り組む態度の育成
B		○地域的人的・物的資源を活用した教育活動の推進	○主体的・協働的に課題の発見・解決に取り組む態度の育成
B		○地域的人的・物的資源を活用した教育活動の推進	○主体的・協働的に課題の発見・解決に取り組む態度の育成
B		○地域的人的・物的資源を活用した教育活動の推進	○主体的・協働的に課題の発見・解決に取り組む態度の育成
B		○地域的人的・物的資源を活用した教育活動の推進	○主体的・協働的に課題の発見・解決に取り組む態度の育成
B		○地域的人的・物的資源を活用した教育活動の推進	○主体的・協働的に課題の発見・解決に取り組む態度の育成
B		○地域的人的・物的資源を活用した教育活動の推進	○主体的・協働的に課題の発見・解決に取り組む態度の育成
B		○地域的人的・物的資源を活用した教育活動の推進	○主体的・協働的に課題の発見・解決に取り組む態度の育成
B		○地域的人的・物的資源を活用した教育活動の推進	○主体的・協働的に課題の発見・解決に取り組む態度の育成
B		○地域的人的・物的資源を活用した教育活動の推進	○主体的・協働的に課題の発見・解決に取り組む態度の育成
B		○地域的人的・物的資源を活用した教育活動の推進	○主体的・協働的に課題の発見・解決に取り組む態度の育成
B		○地域的人的・物的資源を活用した教育活動の推進	○主体的・協働的に課題の発見・解決に取り組む態度の育成
B		○地域的人的・物的資源を活用した教育活動の推進	○主体的・協働的に課題の発見・解決に取り組む態度の育成
B		○地域的人的・物的資源を活用した教育活動の推進	○主体的・協働的に課題の発見・解決に取り組む態度の育成
B		○地域的人的・物的資源を活用した教育活動の推進	○主体的・協働的に課題の発見・解決に取り組む態度の育成
B		○地域的人的・物的資源を活用した教育活動の推進	○主体的・協働的に課題の発見・解決に取り組む態度の育成
B		○地域的人的・物的資源を活用した教育活動の推進	○主体的・協働的に課題の発見・解決に取り組む態度の育成
B		○地域的人的・物的資源を活用した教育活動の推進	○主体的・協働的に課題の発見・解決に取り組む態度の育成
B		○地域的人的・物的資源を活用した教育活動の推進	○主体的・協働的に課題の発見・解決に取り組む態度の育成
B		○地域的人的・物的資源を活用した教育活動の推進	○主体的・協働的に課題の発見・解決に取り組む態度の育成
B		○地域的人的・物的資源を活用した教育活動の推進	○主体的・協働的に課題の発見・解決に取り組む態度の育成
B		○地域的人的・物的資源を活用した教育活動の推進	○主体的・協働的に課題の発見・解決に取り組む態度の育成
B		○地域的人的・物的資源を活用した教育活動の推進	○主体的・協働的に課題の発見・解決に取り組む態度の育成
B		○地域的人的・物的資源を活用した教育活動の推進	○主体的・協働的に課題の発見・解決に取り組む態度の育成
B		○地域的人的・物的資源を活用した教育活動の推進	○主体的・協働的に課題の発見・解決に取り組む態度の育成
B		○地域的人的・物的資源を活用した教育活動の推進	○主体的・協働的に課題の発見・解決に取り組む態度の育成
B		○地域的人的・物的資源を活用した教育活動の推進	○主体的・協働的に課題の発見・解決に取り組む態度の育成
B		○地域的人的・物的資源を活用した教育活動の推進	○主体的・協働的に課題の発見・解決に取り組む態度の育成
B		○地域的人的・物的資源を活用した教育活動の推進	○主体的・協働的に課題の発見・解決に取り組む態度の育成
B		○地域的人的・物的資源を活用した教育活動の推進	○主体的・協働的に課題の発見・解決に取り組む態度の育成
B		○地域的人的・物的資源を活用した教育活動の推進	○主体的・協働的に課題の発見・解決に取り組む態度の育成
B		○地域的人的・物的資源を活用した教育活動の推進	○主体的・協働的に課題の発見・解決に取り組む態度の育成
B		○地域的人的・物的資源を活用した教育活動の推進	○主体的・協働的に課題の発見・解決に取り組む態度の育成
B		○地域的人的・物的資源を活用した教育活動の推進	○主体的・協働的に課題の発見・解決に取り組む態度の育成
B		○地域的人的・物的資源を活用した教育活動の推進	○主体的・協働的に課題の発見・解決に取り組む態度の育成
B		○地域的人的・物的資源を活用した教育活動の推進	○主体的・協働的に課題の発見・解決に取り組む態度の育成
B		○地域的人的・物的資源を活用した教育活動の推進	○主体的・協働的に課題の発見・解決に取り組む態度の育成
B		○地域的人的・物的資源を活用した教育活動の推進	○主体的・協働的に課題の発見・解決に取り組む態度の育成
B		○地域的人的・物的資源を活用した教育活動の推進	○主体的・協働的に課題の発見・解決に取り組む態度の育成
B		○地域的人的・物的資源を活用した教育活動の推進	○主体的・協働的に課題の発見・解決に取り組む態度の育成
B		○地域的人的・物的資源を活用した教育活動の推進	○主体的・協働的に課題の発見・解決に取り組む態度の育成
B		○地域的人的・物的資源を活用した教育活動の推進	○主体的・協働的に課題の発見・解決に取り組む態度の育成
B		○地域的人的・物的資源を活用した教育活動の推進	○主体的・協働的に課題の発見・解決に取り組む態度の育成
B		○地域的人的・物的資源を活用した教育活動の推進	○主体的・協働的に課題の発見・解決に取り組む態度の育成
B		○地域的人的・物的資源を活用した教育活動の推進	○主体的・協働的に課題の発見・解決に取り組む態度の育成
B		○地域的人的・物的資源を活用した教育活動の推進	○主体的・協働的に課題の発見・解決に取り組む態度の育成
B		○地域的人的・物的資源を活用した教育活動の推進	○主体的・協働的に課題の発見・解決に取り組む態度の育成
B		○地域的人的・物的資源を活用した教育活動の推進	○主体的・協働的に課題の発見・解決に取り組む態度の育成
B		○地域的人的・物的資源を活用した教育活動の推進	○主体的・協働的に課題の発見・解決に取り組む態度の育成
B		○地域的人的・物的資源を活用した教育活動の推進	○主体的・協働的に課題の発見・解決に取り組む態度の育成
B		○地域的人的・物的資源を活用した教育活動の推進	○主体的・協働的に課題の発見・解決に取り組む態度の育成
B		○地域的人的・物的資源を活用した教育活動の推進	○主体的・協働的に課題の発見・解決に取り組む態度の育成
B		○地域的人的・物的資源を活用した教育活動の推進	○主体的・協働的に課題の発見・解決に取り組む態度の育成
B		○地域的人的・物的資源を活用した教育活動の推進	○主体的・協働的に課題の発見・解決に取り組む態度の育成
B		○地域的人的・物的資源を活用した教育活動の推進	

評価項目		具体的目標	具体的方策	評価		次年度（学期）への主な課題
国際 語		継続的な理解力や表現力・基礎的な知識等の習得を重視した学習体制を敷く。	授業内容の理解度をノートや課題集の点検を用いて評価する。	A	B	【達成状況】 ○生徒の学習状況を、ノートや課題の点検、授業の観察を通して評価し、その後の授業に活かすことができた。また電子黒板やタブレットを活用することで、生徒の興味・関心を高め、理解を深めることができた。タブレットを用いた活動はまだ十分な点もあるため、活用方法を模索したい。 ○スピーチをはじめとする様々な言語活動を通して、生徒が自分の考えを効果的に構成したり、論理的に説明したりすることができた。また観文等の創作を通して、自己をみつめる機会を設けることができた。 ○学年検定を6月と11月に2回実施し、6月の回では受検生徒に対して課外を行い合格率の向上を目指した。11月の回では課外を行えなかったため、合格率にも影響があったので、来年度はしっかりと実施したい。 【次年度への課題】 ○ICT機器（タブレット）の効果的な活用。 ○学校図書館を活用した読書の励行。 ○学年検定等の課外授業の強化。 ○新課程教科書の指導方法の研究と共有。
		機に応じた適切な表現の体験を通して、自己を見つめようとする意欲の向上を図る。	俳句や短歌の創作等、読む行為によって、自分の心と向き合う機会を設ける。	B		
		数字検定を積極的に受検させ、将来の進路に活かす。	課外や課題プリント配布などにより、効果的な学習のサポートを行う。	B		
		主体的・対話的で深い学びを実現するための授業改善を行い、生徒の学習意欲を高める。	ICT機器の効果的な活用によって、生徒が取り組みやすい身近な話題を学習課題として設定する。	A		
			対話型の授業を展開し、グループワークを單元ごとに取り入れる。また、発問を工夫したり、バリエーション課題を設定したりするよう心がける。	B		
社会			様々な資料を利用し、外部機関との連携を図りながら、成年齢の引き下げにより生じる様々な問題や責任について考えさせ、知識を習得させる。	B	B	【達成状況】 ○「個別最適な学び」と「協働的な学び」を意識した教材・授業づくりを通年で取り入れることができた。 ○1学年の「公民」においては、ICTの活用能力の育成につながる授業づくりを取り入れることができた。 ○生徒たちの授業評価アンケートにおいても良い印象を持っている生徒が100%近かった。 【次年度への課題】 ○1年前の状況をふまえ、今年度構築した授業内容を活かしつつ、さらに力を入れて、生徒たちが社会で活かすことができる知識の習得に努める。 ○自ら課題を見つけ、課題解決に意欲的に取り組むことができるような授業づくりを進めていく。 ○主権者教育や平和教育、SDGs 等々の学習を通して「世界の中の日本」の立場を計画的に理解させる。 ○2学年の「地理総合」の授業がスタートするので、さらなる教科横断的な授業作りを計画する。
			授業内容の電子プリントやワークシートとのチェンジを通して、個々の生徒の能力に合わせた、きめ細かい指導を行う。	A		
			基礎的な学習内容を理解できるように問題演習の時間を十分に確保する。解説の際、電子黒板やタブレットを活用する。	B		
数学			授業中には発問や机間指導を適宜に行い、苦手な生徒にはその都度個別に指導する。ワークやプリントの提出状況から生徒の理解度を確認する。	B	B	【達成状況】 ○電子黒板やタブレットを活用することで、苦手な分野も分かりやすく解説することができた。また自分の意見を発表したり、意見を共有したりと対話的な学びも効果的に進めることができた。 ○机間指導を十分に引き、苦手な生徒への指導を個別に行うことができた。 ○生徒が質問に答える、黒板に板書し発表するなど生徒主体の授業をすることができた。 ○基本事項や前時間の復習を丁寧に行うことで、本時の問題への理解度が増した。 【次年度への課題】 ○基礎学力の定着 ○苦手な生徒への指導の工夫 ○タブレットの活用 ○家庭学習の充実
			主体的・対話的で深い学びを意識した授業を行い、生徒の思考力・判断力・表現力を向上させる。	B		
			問題演習の際、グループで対話活動をさせる。また考えを黒板に記述させ発表させる。	B		
理科			基礎的な学力の定着を図る。	B	B	【達成状況】 ○教科書の内容だけでなく、日常生活の中で身近に感じられる科学的現象をできる限り取りあげる授業展開を心がけた。 ○ビデオ教材に合った自作プリント等を作成し、基本的な知識の定着を促した。 ○質問に対する素手解答や前に出て問題を解かせる素問策を作るなど、生徒が主体的に学習するよう工夫をした。 ○生物の生態実験において、タブレットを利用して画像撮影するなど、実験場面やレポート作成においてICTの活用を心がけた。 【次年度への課題】 ○タブレットや電子黒板等のICT授業のさらなる有効活用。 ○より多くの生徒実験をするための教科書担当者内の研修。 ○実験に関わる薬品及び材料等の整理や備品を定期的に行うなど、実験環境の整備。
			日常生活にあふれる科学的現象に対する興味・関心を高める。	B		
			物理実験室・化学実験室の整備と他教科も含めた授業での有効活用を高める。	A		

評価項目		具体的目標	具体的方策	評価		次年度（学期）への主な課題
体育		体力の向上と各種運動技能の習得に努める。	体づくり運動の充実を図り、体力テストA及びBの割合を50%を目指す。	B	B	【達成状況】 体育 ○体力テストA及びBの割合は44%と目標の50%を達成することができなかった。 ○卒業課題については補習等を行い、目標を概ね達成することができた。 ○実技研修として指導の仕方など通言語し合いや共通理解を図った。 保健 ○各授業において身近なニュースを取り上げながら授業展開を図った。生徒の興味を引き、具体的に内容を理解し、思考・判断することに繋がったと感じる。 【次年度の課題】 ○体力テストのA及びBの割合のボーダーを50%として、体づくりや持久走などの授業を通して体力を高める運動を取り入れた。 ○体育館でICTを使った授業をしたいので、Wi-Fiを繋げてほしい。
		できる喜びを実感できる授業実践に努める。	卒業課題の合格率75%以上を目指す。	B		
		体育的学校行事とのタイアップをはかる授業を展開する。	授業においてクラスマッチ種目のルール等を取り扱い、学校行事の成功と意欲の向上を図る。	A		
		よりよい体育授業の実践を図る。	担当者会員による学期1回以上の実技研修会を実施する。	B		
		生涯にわたって必要な知識・技能の習得を図る。	ICTを活用して話題のニュースを取り上げ、生徒の実生活に密着するように、各場面での思考・判断能力を養う授業展開を図る。	B		
英語		基礎学力の向上に努める。	ICT機器を効果的に用いて、生徒の活動時間を増やし、知識の定着を図り、基礎学力の向上を目指す。 単元ごとに課題をおこない、学習ノートの提出により、きめ細かく、継続的に理解不足の生徒に対して指導する。	A B	B	【達成状況】 ICT機器を効果的に用いることができ、授業評価生徒アンケートでは、「コンピュータやタブレットなどを活用し、学びの進め方を工夫している」という項目の肯定的回答が96.4%であった。 ○授業において継続的な指導を行ったが、全商英検3級合格者は57%であった。 ○1学年次は全商英検2級3名、1級2名が合格することができた。 ○小テストや単元テストなどの段階的な指導で、基礎学力向上を目指すことができた。 ○ペアワークやグループワークを行い、対話的なやりとりのコミュニケーション活動ができた。 【次年度の課題】 ○今年度へのタブレットの活用 ○計画的なスモールトークやペアワークやプレゼンテーションの実施 ○基礎学力の定着
		資格取得のための指導に努める。	A・Tとのライムタイムセッションを存分に活用し、主体的にコミュニケーションをすることで、リスニング・スピーキング能力を高める。	B		
		実践的コミュニケーション能力の向上に努める。	ペアワーク・グループワークを積極的に取り入れ、他者との対話的なやりとりを通して自らの考えを深めながら、コミュニケーションを積極的にしようとする態度を育成する。	B		
		主体的・対話的で深い学びを実現するために、基礎的・基本的な知識と技能を習得する	ICT機器を効果的に活用し、具体的にわかりやすい授業を展開する。	B		
			プリント・学習ノートの活用や実技テストを実施して、基礎的な知識・技能を定着させる。	B		
家庭		主体的・対話的で深い学びを実現するために、基礎的・基本的な知識と技能を習得する	授業・実習を通して、コミュニケーション能力を養い、協調性や自主・自立の精神を育成する。	A	B	【達成状況】 ○車道カメラや電子黒板を、図表の説明や生徒の発表に活用することができた。 ○学習ノート等の提出物は単元ごとに点検し、未提出がないように指導することができた。 ○きょうりの半月切りや厚焼き卵の実技テストを実施することで、基礎的な技能を定着することができた。 ○コロナウイルス感染予防対策をしながら、調理実習を行うことができた。 ○ホームプロジェクト活動を通して、家庭生活に関心を持たせ、主体的に生活の改善・向上に取り組みようとする姿勢が約8割の生徒に見られた。 【次年度の課題】 ○ICT機器を効果的に活用した授業の実施 ○無気力な生徒への指導の工夫
		家庭生活の充実向上を図る能力と実践的な態度を育てる。	ホームプロジェクト活動を通して、家庭生活の質を向上させる。	A		
		学力・指導力の向上を図る。	生徒一人一人の愛護を把握し、「わかる」「できる」「美しい」授業を目指し、知識の定着を図る。また、探究的活動を通してビジネスに関する発展的学習を行い知識を活用する力の育成に努める。	B		
			ICT機器を利用した授業の構築や授業研究を通して、授業改善を行い、主体的・対話的な深い学びの実現に向けた指導力向上に努める。	B		
			地域と連携した商業教育の推進や商業教育の理解をさらに深めるために、体験入学や出前授業の内容を工夫して実施する。	B		
商業		ビジネスにおける実践力の育成を図る。	すべての商業科目の中でビジネスマナー及びコミュニケーション能力を身につける工夫をし、育成する。	B		

評価項目	具体的目標	具体的方策	評価	次年度（学期）への主な課題	
教務	教員のICT機器活用技術向上を図り、GIGAヘルスツール標準を念頭に置いた授業中のタブレット使用頻度の増加。	全教職員が授業をおとして生徒のタブレット使用を積極的に高める。 ICT機器利用技術およびタブレット活用の情報を職員で共有し、利用技術の向上と活用頻度を高める。	C B	【達成状況】 ○授業中の生徒のタブレット使用については教員や教科、学年によって使用頻度にはばらつきが出てしまっていたようである。 ○「単元別指導と評価の計画」を念頭に置いては、授業中にタブレットを使用していることが多かった。 ○前ドリルを実施したり、放課後や長期休業中の時間を利用して指導する機会を設け、フットワークを強化することを目指した。 ○先生一人ひとりの学習に対する意識の改善までには至らなかった。	
	「指導と評価の一体化」を念頭に置いて観点別評価の適正な評価標準の作成及び「単元別指導と評価の計画」の導入とその充実を図る。	「基礎力診断テスト」を有効活用し、基礎学力の向上を目指す。また、各学年においては積極的に前ドリル等の機会を設け、あらゆる場面で学習習慣が定着できるように促し、学習不振による遅退者の減少に努める。	B	○授業時間の確保については、コロナ禍の中でも授業時間を確保するために、授業開始時刻を前倒しして実施することとした。 ○個人情報保護に関する研修を通して教員への啓発を行った。適切な管理を行うことができるように心掛け、本校の取組を積極的に発信することができた。	
	基礎学力の低い生徒への指導を充実させ、学習不振の生徒の減少に努める。	本校の現状をふまえて、内規の問題点を話し合い、必要に応じて見直す。 コロナ禍により授業時間の確保が困難になる可能性も踏まえて、学校行事等の内容をゆとりとし、必要な時期に必要な授業時間が十分に確保できるよう努める。	B A	【次年度への課題】 ○全ての教科でタブレットをどの場面でも活用することを明確にした上での適度な実施。また、教員個人のタブレット活用と利用技術については情報共有し、利用技術の更なる向上を図る必要がある。 ○「単元別指導と評価の計画」を念頭に置いて観点別評価については、教員の授業改善、生徒の学習態度の向上など、より一層の全職員の共通理解、連携強化に向けた取り組みが必要である。	
	情報の保護・管理に努める。	手続きに合った個人情報の保護を適正に管理する。	B	○個人情報の取り扱いについては、引き続き、関係者への周知徹底を図ることが重要である。	
	H P の適正な運営と教育活動の公表に努める。	ガイドラインの作成とそれに沿った活動を活性化させ、迅速な情報の公開を心がけ、本校教育活動のPRを行い、生徒募集につなげる。	B	【達成状況】 ○校内のホームページやメールマガジン等を通じて、学校の様子や行事の開催状況を伝えることとした。また、生徒からの問い合わせにも迅速に対応することとした。	
	生徒指導	学校全体で挨拶を活性化させる。	登校時の昇降口及び廊下等での挨拶を教職員全体で積極的に行う。	A	【達成状況】 ○全校の児童・生徒が挨拶を習慣化し、挨拶の回数が増えた。また、挨拶の質も向上した。
		服装・頭髪等について校則を守らせる。	生徒の指導を得る指導をしながら登校指導、授業時、休み時間等において職員間及び学年間の連携を図り、日頃から服装・頭髪等に留意できるような環境を整える。	B	○服装・頭髪については、引き続き、学年単位での指導を行うとともに、個別指導も行う。
		ネットモラルを定着させる。	スマホ安全教室、道徳の時間、ホームルーム等を通して、SNSの使い方、インターネット上のトラブルを未然に防ぐ。	B	【次年度への課題】 ○基本的な生活習慣、ネットモラルについては、その必要性を感じながら引き継ぎ、様々な場面でも実践していく。
		交通ルールを守らせ、事故を未然に防ぐ。	自転車点検、交通安全講座、バイク実技講習会等を実施すると共に、校外立寄指導やH R等で目撃から交通安全に関する注意喚起をし、交通事故を防止する。	C	○立寄り禁止区域の巡回を強化し、学校内外で真に社会性のある生徒を育てる。
		問題行動を未然に防ぐ。	立寄指導や屋外での校内巡回を行う。服装検査や様々な集会等で、起こりうる問題行動等について注意を促す。また、問題行動が起これば迅速に対応する。	B	○多様な価値観を尊重する社会状況を見据え、従来の指導方法を柔軟に変えていく。
教育相談活動を充実させる。		年9回の担当面談（そのうち2回は保護者面談）に加えて、スクールカウンセラーによる生徒、教員、保護者へのカウンセリングの場を用意し、個々人の悩みを抱えこまない環境を作る。	B	○多様な価値観を尊重する社会状況を見据え、従来の指導方法を柔軟に変えていく。	
特別活動		生徒会・H R 活動の活性化につとめる。	生徒会役員を中心に、生徒会組織を生かした学校行事運営を図る。	A	【達成状況】 ○学校行事に関しては、生徒会が中心となって企画・実行することとした。
	部活動加入率60%を目ざし、年間を通してその維持に努める。	部活動所属生徒の活動を校内や地域社会に知らせること、各部活動の入部者を増やし、意欲的な取り組みを促す。	B	○生徒会の役割は、生徒のリーダーシップを発揮し、各部活動の発展に貢献することとする。	
	体育的行事、文化祭等の学校行事に対し、生徒の主体的参加を促す。	部活動の生徒を中心に、挨拶等のマナーアップ、学校周辺の美化活動等に取り組む。	A	○部活動の発展のためには、部活動の魅力を高め、部活動の魅力を伝えることが重要である。	
	生徒会活動を通してキャリアパスポートを推進する。	各ホームルーム役員および委員会を中心とした活動を活性化させることで、学校行事の充実を図り、体育祭、文化祭の成功を目指す。	A	【次年度への課題】 ○キャリアパスポートの活用を促進し、将来の夢を持つ生徒を増やす。	

評価項目	具体的目標	具体的方策	評価	次年度（学期）への主な課題
進路指導	進路について理解を深めさせ、個々の能力・適性に合った進路決定をさせる。	進路ガイダンスの時期・内容を検討し、学年との連携を図りながら実施に努める。	B	【達成状況】 ○年間予定のガイダンスは実施済である。（臨時点までの分） ○就職関係は会社見学を100%実施できた。学校紹介による内定も100%。 ○求人票閲覧システム「Handy進路指導室」の活用により、生徒及び保護者にも十分な情報提供ができた。 ○進学関係では、3 学年の尽力によりほぼ全ての生徒が〇〇に参加できた。 ○企業やハローワークと綿密な情報交換による連携がはかれた。 【次年度への課題】 ○進路行事の企画は、コロナ拡大の影響を考慮しながら柔軟に対応する。 ○進学指導の時間が、時期的に就職指導と重複して、少し不十分な点もあった。 ○就職・進学の資料及び電子データ整理を計画的に進める。 ○生徒の企業見学を同時1社、または2社に統一する。
		「進路の手引き」を発行し、進路希望の実現に活用させる。	B	
		企業、ハローワーク、上級学校との連絡を密にし、生徒に的確な情報を提供する。	A	
		進路資料室の効果的活用を目指す。	B	
		生徒・職員・保護者への情報提供の仕方を工夫し、閲覧資料の整理に努める。	B	
環境整備	清潔な環境を目指す姿勢を育てる。	環境美化活動を通して、生徒の美化意識の向上に努める。	B	【達成状況】 ○ワックス塗布やモップ交換は、学年ごとに仕事を分担することで効率的に実施できた。 ○文化祭等の行事後の清掃等積極的に活動することができた。 【次年度の課題】 ○委員会活動を通して生徒の自発的な活動をより促す。 ○さらに学習環境の整備を進める。
		効率よく環境整備をするためのアイデアを出し合い、創意工夫の能力の育成に努める。	B	
		清掃道具を速やかに補充し、生徒自らが意欲的に校内美化に取り組む環境を整える。	A	
		より清潔できれいな学校にするための中・長期的な計画を、生徒とともに模索する。コロナ禍でも安全に学校生活が送れるよう環境整備活動に努める。	B	
		環境美化を主体的に実践しようという意欲を育てる。	B	
保健厚生	生徒の心身の健康増進を図る。	新型コロナウイルス感染症予防対策の徹底を図る。	B	【達成状況】 ○園、県からの新型コロナウイルス感染症予防対策指示について迅速に対応した。また、学校ガイドラインのもと、感染症対策の徹底を図った。 ○美術部の協力によりコロナ感染予防啓発ポスターの作成。 ○各種健康診断、各種環境検査（1回）実施した。 ○外部講師を招いた性教育講演会（10月）を実施した。 ○防災避難訓練を実施した。結核市消防署の都合により消火訓練は実施しなかった。 ○結核市防災安全課の指導のもと、学校避難確保計画画書及びチャートリストの策定。 ○保健室運営については、来年度生徒の状況を把握し処置等、十分に対応できた。 カーテンの管理、購買、出入報告など、係を設け実施した。 【次年度への課題】 ○新型コロナウイルス感染症と共に生きていくための、「学校の新しい生活様式」の実施。学校ガイドラインの見直し。 ○学校危機管理マニュアルの定期的見直し。 ○教室のCO2測定器の有効活用。 ○環境検査の年2回実施。
		消防・防災避難訓練会を実施する。危機管理マニュアルの共通理解を図る。	B	
		エプソン、ストーブの安全管理および生徒の健康管理に努める。	B	
		学習環境を整備する。	B	
		水質検査および室内環境検査等を実施する。	B	

校務分掌

評価項目	具体的目標	具体的方策	評価	次年度（学期）への主な課題
図書	図書室・第2図書室の環境を整備し、学習活動及び各種活動を支え、情報収集・選択・活用能力を育成する。	読書の配置・装飾の工夫や、資料の整理・迅速な手続き処理などにより図書室を利用しやすい環境に努める。	B	【達成状況】 ○図書室を利用しやすい環境にできた。 ○1年生のオリエンテーションを実施し、アンケートで読書への関心等を把握できた。 ○新刊案内を定期的に提供できた。 ○希望図書を一定程度購入できた。 ○図書たよりを図書委員各学年1回ずつ発行できた（3学期・1年生は予定）。 ○図書委員の活動を積極的に推進できた。 【次年度への課題】 ○夏休みの図書委員研修参加率を上げること。 ○図書委員の図書当番出席率を上げること。 ○生徒の図書室利用者数を増加させること。 ○図書部会を定期的に開催すること。
		読書習慣の推進を図り、主体的・意欲的な学習活動や読書活動を充実するよう努める。	A	
		新刊本の表紙をカラーコピーし、可能な限り（60%以上）資料の提供を行う。情報機器の利用を工夫し放課後等の活動に活用する。	A	
		リクエストボックスやアンケートをととして購入希望図書を募り、希望の60%以上を購入する。	B	
		生徒発行の「図書だより」を年間3回以上発行して読者のよさを周知し、読書に対する関心を高める。さらに、図書関係行事の広報に努める。	B	
		図書室内の装飾・図書点検・環境整備・リクエストボックスの回収等における図書委員の活動を通じて、主体的な活動を推進する。	B	
		図書委員の自主的・主体的な活動が活発になるよう促す。	B	
校務分掌 渉外	PJA総会・各種行事、会合への保護者の参加率を高め、学校・家庭との連携を密にする。	読書の配置・装飾の工夫や、資料の整理・迅速な手続き処理などにより図書室を利用しやすい環境に努める。	B	【達成状況】 ○コロナ禍で今年度もPTA総会が書面開催であったが、本部役員会など多くの保護者が参加しました鬼形祭にもたくさんさんのPTAが参加できてよかった。 ○PTA広報誌「鬼怒」が、例年より早めに取り組んでいたのが来年度も早めに取り組む。 ○コロナ禍で研修旅行は実施しなかった。 ○本部役員会など勤務時間外に詰まる会議に多くの保護者が参加してもらえた。 ○スクールバスは、通常通り安心安全に運行できた。 【次年度への課題】 ○コロナ禍でPTA総会・研修旅行が実施できなかったが、できなくともここ数年問題がなかった。
		PTA総会をはじめ各行事への参加率を高めるための工夫・改善をする。	B	
		学校の教育活動を積極的に広報するため、メール配信やPTA広報紙「鬼怒」の充実を図り、保護者の学校理解を促める。	A	
		会員相互の親睦をはかるため、保護者対象の研修旅行等を実施する。	B	
		高P進やさわやかランチ運動等の学校内外への保護者の積極的な参加を促し、得た情報を共有する。	A	
		PTA支部研修会を実施し、保護者同士・職員の情報交換を行い、協力体制を確立する。	A	
		同窓会役員との連絡を密にして、組織の活性化、強化に努め、記念事業の準備を進める。	B	
		スクールバス運行委員会において、問題点を把握し、安心安全に通学できるようにする。	A	

評価項目	具体的目標	具体的方策	評価	次年度（学期）への主な課題
	基本的な生活習慣の確立。	日常生活における挨拶の励行、制服の正しい着法、身の回りの整理整頓を促す。	A	【達成状況】 ○挨拶や制服の着こなしなど、ほとんどの生徒はきちんとできた。 ○常に時間を意識して行動することができ、他者へ影響を与えるような事例はほとんどなかった。 ○校則の意味を理解し、順守すべき点は共通意識をもつてのぞめた。 ○教科によって主体的に取り組んでいるものとして、その差異があった。行事に関しては主体的に参加できた生徒が多かった。 ○進路行事は時期や回数などは適切であったが、事前準備や当日の取り組み状況などでやや課題が残った。 【次年度への課題】 ○周囲と円滑なコミュニケーションが取れるよう、自分の意思を適切に言語化できる能力を育てる。 ○多くの資格取得を目指し、計画的に学習に取り組めるよう指導する。 ○受け身ではなく、積極的に参加できるよう、授業への意識の醸成を図る。 ○卒業後の進路に対して、より具体的に考え行動できる生徒を育成するよう、ガイダンスなど行事の内容とその事前指導を充実させる。 ○タブレットの充電が不十分だったり、家に持ち帰って忘れられる生徒が目立ったので、その対策を考える。
	規範の順守。	本校のルールを理解させ、SNSなど情報モラルの指導を徹底し、社会規範意識の向上に努める。	A	
	授業や学校行事への積極的な参加。	授業や学校行事へ意欲的に取り組めるよう、自ら考え行動できる主体性を育てる。	B	
	進路意識の確立。	LHRや進路行事を通して、必要な情報を提示し、将来を見据えた目標を設定させる。	B	
	集団生活におけるマナーを身に付け、コミュニケーション能力を高める。	挨拶を習慣化し、相手の気持ちを考え行動することを、日常的に考えさせる。また、様々な場面で、生徒同士がコミュニケーションをとる機会を設ける。	B	
一学年	基本的な生活習慣を確立する。	時間や約束を守るという、社会人としての最低限の必須項目の実践を通して、信頼される人物を育成する。	B	【達成状況】 ○あいさつや時間を守る生活については概ね身についていたが、若干、特定の生徒で遅刻が多い生徒がいた。 ○修学旅行は、体調不良や事故などもなく滞りなく実施できた。また、修学旅行を通じて生徒間のコミュニケーションが密に行われ、良好な人間関係が構築された。 ○情報ビジネス科を中心に課外活動などが実施され、資格取得に対する意識が高まっている。 進路決定については、未決定の生徒に対する指導をほとんどどの生徒が決定している。 【次年度への課題】 ○全体的な進路希望の累計を減少させることを見る。 ○早期の段階で面接や小論文などの指導を実施する。特に進路希望者に対して具体的な進路決定を促し、就職希望者においては、社会人としての心構えやマナーを身に付けさせる。 ○進路実現に向けた進路指導を計画し実践する。
	学校行事に主体的に参加し、仲間意識やリーダー性を身に付ける。	自己肯定感を高めさせ、学校行事等において中心となり活動させる。	A	
	資格取得に向けて意欲的な学習をする。	家庭学習を習慣化させ、専門科目の知識をさらに身に付け、多くの資格取得が出来るような指導を行う。	B	
	適性を把握し、その適性に合った進路を実現できるように計画的な準備を進める。	自分の適性を学力診断を通して理解し、その上で卒業後の進路が自己実現できるよう、適切な進路ガイダンスや、進路指導計画を実施する。また、個別面談を徹底実施しつつ、生徒の個性を伸ばし、進路活動が円滑に進められるよう指導する。	A	
	生徒の進路実現に向けて、支援を行う。	生徒が進路を適切に決定できるよう、適切な進路行事を計画・立案し、学年職員全員で支援する。	A	
二学年	生徒の進路実現に向けて、支援を行う。	就職においては、必要に応じて保護者を含めた面談を必要回数実施し、就職率の低下につながる指導を行う。進路者においては、奨学金についての案内がきちんと保護者へ届くように教員の連携を図る。	A	【達成状況】 ○進路については今年度の求人内容が、例年よりも比較的好条件であり、求人数も多かったことから、円滑に就職希望者の対応ができた。 ○インターネットによる求人票の公開を行ったが、進路指導部と協力してアナログとデジタルのハイブリットで実施したことが、円滑な指導につながった。 ○進路希望者の指導は、クラスの中で進路にこだわらず、学年全体として指導ができ、生徒の安心感を生み出した。 ○商業科の先生方の尽力により、最後まで力を抜くことなく、様々な資格取得に取り組むことができた。 ○生徒の問題行動については、担任の迅速な気づきと対応により、ただ叱るだけではなく、学びにつなげる指導ができた。 【次年度への課題】 ○次年度の3学年に進路のシステムについて引継ぎをしっかりと行う。 ○様々な生徒・保護者とのかわり方等について、今後活かすことができる情報の伝達を行う。
	各教科と連携を図り、一般常識や、最低限の知識の定着に努める。		B	
	商業科目の知識を活かし、社会で役立つIT・ビジネスなどの国家資格や、全前期取得に積極的に取り組ませる工夫を行う。		B	
三学年	社会人となるために必要な、知識やマナーを身に付けさせる。	HJRや集会を通して、社会人として必要な礼儀作法や言葉遣いなどのマナーについて、きめ細かい指導を行う。また、他者を思いやり協調性を育む指導を日常生活を通して行う。	B	

※ 評価基準 A：目標以上に達成できた B：目標を達成できた C：目標を下回った D：目標を大きく下回った